平成22年春の叙勲

平成22年4月29日発令の春の叙勲の市内の受章者を紹介します。

瑞宝双光章　元山田消防組合物部消防団長（消防功労）

おかもと　よしみ
岡本　喜身さん（75歳）物部町神池

岡本さんは、昭和31年4月に、上韮生村消防団に入団し、平成10年3月まで42年間にわたり消防団員としてご活躍されました。

昭和64年1月から平成10年3月までは、物部消防団団長を、平成6年3月から平成9年3月までは高知県消防協会代議員を務められています。

団長時には、物部村栃本地区山林火災（平成元年）や県内最大規模といわれた物部村別役地区林野火災（平成5年）があり、的確な判断による指揮をとられました。元物部村議会議長

香美市勢健闘！

スポーツニュース！

4月29日、香北体育センターで**第5回香美市体力つくり少年剣道錬成大会**が開催され、市内外の学校・団体から53チーム、308人が参加し、小学生・中学生・高校生の3部門で熱戦が繰り広げられました。市内関係出場者は次のような成績を収めました。

中学生の部（団体）
優　勝＝鏡野中学校　　3位＝大栃中学校

中学生の部（個人）
優　勝＝西内佑輝大（鏡野中）
準優勝＝出張巧真（鏡野中）
3　位＝芳川拓未（山田少年剣道教室）

高校生の部（個人）
優　勝＝近藤伸政（高知工業高）
準優勝＝平山傑（山田高）

救急車更新
新資機材搭載！

香美市消防署香北分署の救急自動車を更新し、4月9日から運用が始まりました。

新型車両は、高度救命処置用資器材を搭載しており、重篤な傷病者に対する除細動（電気ショック）や薬剤投与など、救急救命士が行う高度な救命処置が可能となっています。

香美市では、救急需要が高水準で推移しており、重篤な心臓や脳の疾患が増加傾向にあることから、救命率の向上に寄与するものと期待されます。

香美市文芸　風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会　選

鏡野や桜満開画面にて　岡村　和躬
念願の吉野の桜八十路すぎ　有澤　春江
花筏小さき流れも夜目に映ゆ　小原　子川
春嵐流されてゆく洗い籠　山﨑　寿美
タンポポの綿毛飛び交い風光る　楮佐古きよ
脱藩の深山の風に囀れる　千頭　野草
蚕室を吹き抜けてゆく青嵐　山﨑　貴子
川風を腹いっぱいに鯉幟　三谷　誠郎
青柿の落ちて今宵の思慕一つ　森本　幸美
高松道津田湾の春絵になりそう　高野　和一
自動ドア青田の風を誘いこむ　森本　純喜
花見終へ旧友と帰りし朧月　山本　太幸
蜜蜂の分封の乱砂投げる　福留とものり
あちこちで優しさ貰ふすみれ草　臼井　幸子
温泉疲れに藤の花ゆる露天風呂　岡田美代子
同窓会肩抱き合ふて花の下　北村千鶴子

◆かがみ野俳句会◆

木の芽渓ここに発する水の旅　佐竹　洋子
てふてふの花大根にさがす恋　鍵山　和枝
一人居の庭を明るく春の花　佐藤　幸
春昼や琴柱ふれし節子の手　利根　弘子
巣立ち鳥棟一列や濡つ雨　古川　信子
大黄砂夫眠る丘遠くせり　小松　愛子
鳥帰る空に矢印あるやうに　中澤　美晴
虎杖を噛み脱藩の道越える　森本　倢代
誤ってペンキをこぼす戻り寒　山﨑　鈴子
はにかみて漢の唄ふ雛の歌　吉田　芳

◆韮句会◆

大試験孫が挑める自衛官　吉村　幹愛
惜しみつつ仏へ剪りて緋のぼたん　公文　春紀
園児らの描く花どれもチューリップ　岡本かほる
竹林に囲まれてゐる花御堂　高橋　章
俎の中の凹める昭和の日　北村　幸子
太陽をベールで包み黄沙降る　西川　常夫
末っ児の頬まるまると入学す　篠﨑　亜希
藪を出てまたすかんぽの風のみち　甲藤　卓雄
仁淀川見おろす機舎竹の秋　野崎　典子
竹林に鳥のよき声御開帳　北村　里子
子猫みな親に続きて塀渡る　明石ゆきゑ
緑立つ里に子供の声消えし　小野川順子
菜の花もそえ花御堂手を合わす　前田　芳子
枝離れ飛花天空にひるがえる　明石　英子
神妙に婆真似そそぐ甘茶仏　竹内　ろ草

◆かほく俳句会◆

春の雨まづ黒塀に降り出せり　乾　真紀子
ひい孫が笑へば笑ふ桃節句　奥宮さとみ
梨の棚持ち上げ梨の花吹雪　久保内鏡子
行商の呼び声高し花の下　黒岩　幸女
雨風に組替へられし花筏　黒岩千英子
桜咲き個展案内届きけり　小松　完
孫二人職につきたる花の宴　小松　隆之
山鳩のくぐもれる声花曇り　小松　昇
墨を濃く「蠶」一字春めきぬ　杉山　春萌
叶ふ事適はざること花の頃　前田　欣一
白髪嶺の風に戯れ紫木蓮　前田　秀女
若き脳欲し春キャベツ乱切りに　間崎　和代
春愁のぷつんと切れて仕舞ひけり　森本　之子
風車まだ風の向き知らぬ子へ　山崎かずみ
咲き満ちて括られてをり牡丹かな　山中　晶子
帰宅せし夫の定席春炬燵　山中　明石
春眠の中に働く吾が居る　山中　瑞輝

◆土佐山田町俳句会◆

花万朶有沢一郎顕彰碑　明石　韮生
初つばめ二日遅れの日記書く　前田　小夜
忘れ霜バイキンマンのバスが行く　前田美智子
つばくろや郷には郷のしきたりも　大石　邦男
セールスの電話流暢万愚節　森田　菊恵
陶狸でんと居座る桜東風　安丸　槙子
四月馬鹿仏の母に嘘ひとつ　橋本　昭和
ナース呼ぶ声は春着の松葉杖　中沢としみ
孟宗竹が家系の端で繁茂する　樫谷　雅道
畦焼いて自分の鼓動聞いている　馬場　英男
学寮に一樹のありて囀れり　田村　一翠

今月のキラリ✦

俎の中の凹める昭和の日

激動の昭和。作者が生きた昭和という時間を、まな板の凹みに象徴させて読んだ「昭和の日」の感慨である。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所不要）　FAX53・5958